

ができることと信ずる。診断のつかないままに入
院して来る病児の実態と症状の適格なる観察の仕
方、予想されるべき症状に対する当をえた看護の
計画の重要性、診断への資料の提供が敏速、綿密
に行なわれなければならない点などもよく理解さ
れる。非常に苦勞してたてられた教案であり、小
児の看護か成人と比して、どんな所にポイントを
おかなければ、小児を実際に看護できないかがよ
くわかる。小児科看護法 26 時間中、6 時間をこ
の単元に使用され、立体的に正しい応用力を身に
つけるようにと、必要時患児を一例として看護上
の問題をとり上げて、疾患別、症状別両面より学
習を進めて行かれる単元の展開に、研究の程がし
のばれる。実際の看護計画をたてさせてみる（宿
題として）のも一案であろう。6 時間の内容につ
いて、もう少し具体的に、きざみを深く掘り下げ
られて（例 1. 泣き声によるみわけ方 2. 胃の
安静、3. チアノーゼなど）いき、小児特有の看
護の實際を具体的な方法で表現されたら非常に充
実されたものとして、他の指導者にもまた役に立

つことと信じます。しかも関連学科の講義内容も
十分考慮されている教案なので。その他母親、家
族に対する諸問題（面会などについてを含む）、
療養生活の援助（保健指導を含む）、予防などを
包括したらより実態にもそった輝かしい教案とも
なろう。いずれにせよ、非常に研究された教案で
あることがしのべれます。総論的には、たて割的
であり、この教案課程には横割的なものを十分に
とり入れたことは実にベテランだと思います。小
児科看護法が十分身につく理解していなければで
きないようなテストも提出されており、学生は学
ぶことに「よろこび」と知ることの「よろこび」
をあわせて体験できうものと信じ、学習意欲も
増すことであろう。そして明日のよき看護婦を育
てることにもなるでしょう。その点から総合的に
考えて、島本さんの検討し研究された教案を拝見
して非常にうれしく思いますと同時に、熱意のあ
ふれたこの教案に対してほのぼのとしたものを感じ
、私自身学ぶところが多々ありました。

（東京通信病院付属高等看護学院教務主任）

編集デスク <35>

過日、ある学会でフランスから日
本文学の研究に留学して来ている大
学生に会う機会があった。彼は明春
留学を終えてフランスに帰らなけれ
ばならないと言っていた。日本語は
かなり流暢に話す。外人特有のアク
セントが加わるのはやむを得ない
が、よく勉強したものだと思う。学
会での研究発表を熱心に聞き、克明
にノートをとっている。新宿でおこ
なわれていた近代日本文学館主催の
文学史展の最終日に当たっていたの
であるが、その方には足を向けない
で、学会場の方にやって来たという
学生である。

いろいろ話をしているうちに、日
本の現実と考えあわせてぎくりとさ
せられることがあった。若い青年で
あるこのフランス大学生は、帰国す
るとすぐ兵営に入らなければならない
のだと語っていた。もうゆうよさ

れるぎりぎりまで延ばして来ている
ので、それ以上の延期は認められな
いのだという。ちょうど、来年パリ
に行くことになっている教授が、語
学が不得意なので、この文学青年を
頼りにしていたのだが、青年学生は
どこの兵営に入ることになるかわか
らない、パリの近くか遠くかもわか
らない、しかしおいでになる頃はど

フランス留学生の帰国

——長谷川 泉——

こかの兵営に入っていることだけは
まちがいない、と淡々と語ってい
た。

兵営に入っている——私にも軍隊
の若い思い出がある。私たちの学友
の何人かは、北にあるいは南にその
生を絶った。クラス会ごとに、その
ような周囲の空虚感がただよう世代
である。そして不毛の軍隊生活の思
い出が苦く思い出される。このフラ

ンスの青年学生のことは、私を軍
隊生活と戦争の頃の思い出に立ちか
えらせるとともに、兵役というもの
と無縁で学会で研究発表をしている
今の日本の若い世代の人たちの上に
思いをはせさせることになった。

今の日本の青年たちには、兵役は
ない。戦争による廃墟と、それにつ
づく戦後の苦しい窮乏生活は忘れ去
られたような明るい陽ざしのなかで
研究発表が続けられている。フラン
スからの留学生もそれを聞いて、ノ
ートをとっている。そして、このフ
ランス学生、文化の香をまきちらす
フランスからの留学生は、もうぎり
ぎりの延期の限界にきた兵役につく
ために近く帰国してゆく。

これは、まぎれもない現在のある
1日の日本の現実であったのだが、
私はもう8年前になった訪欧の時の
パリの印象をこの青年と語り合いな
がら、この青年が、兵営に入ってゆ
くということばを嘯みしめていた。